鉈屋町町内会だより

鉈屋町町内会 通常総会

5月21日、大慈寺地区消防コミュニティセンターで、今年度の通常総会が4年ぶりに開催されました。2022年度の決算、2023年度の予算が承認されたほか、役員の改選も行われました。

不定期発行

発行者
鉈屋町町内会

編集 / 文責 / 撮影
桂 汎用工房
脇田 桂一郎

印刷
小松総合印刷
株式会社

町内会長であった石岡 昇司さんが、今年度より民生委員を務めることから、兼任は多忙のため副会長となり、新たに田口清司さん（写真 右）が町内会長となりました。

また出席者から、町内会費の金額についての質問がありました。鉈屋町の町内会費は、他の町などと比べて特段高い訳ではなく、いろいろと試行や調整の上、現在の額に落ち着いていることや、役員だけで決定するのではなく、皆さんの意見を取り入れて、今後も適正な額にしていきたいとの説明がありました。

わかば公園 花壇植栽

6月25日、わかば公園で花苗の植栽を、町内会役員が中心となって行いました。

花壇の土を耕し、古い根などを取り除きます。

そして、マリーゴールド・メランポジウム・ニチニチソウ・ベゴニア・サルビアの苗を、思い思いの配置に並べていきます。

朝早くからお手伝いいただいた皆さん、お疲れ様でした。

め組の山車つくり

6月中、山車つくりは人形の型決めが主となって進みました。

木の骨組を作り「盆」に固定します。

そして手や首の位置・向きを、あーでもない・こーでもないと試行錯誤で決めていきます。

人の形ではあるものの、全く人間と同じというわけにも行かず、それでいて人とかけ離れてもおかしいので、難しい部分です。

ある程度ポーズが決まったら、スポンジなどで肉付けしていき、さらしを巻いて整えます。

たまに一家言ある方が訪れて、注文をつけたりすると、一度組んだものを外して、やり直しすることもあるそうです。

そういえば、決まったと思ったものが、次の週に行ってみると違う型になっていたりしたこともありました。

人形がほぼ出来上がり、衣装や鎧を付けてみて、またチェックと調整です。もちろんこれで終わりではなく、まだまだ長い作業が続きます。

寺の下の歴史をたどる

盛岡市学びの循環推進事業の一環で「奈良時代から江戸時代の寺の下の歴史をたどる」が、ポレポレ会の主催により6月21日に開催されました。

寺の下は、盛岡城遠曲輪の堀と土塁が通っていたところで、現在でも土塁の跡が残っている場所があります。一昨年、連正寺と駒木葬祭の立て直しの際には発掘調査も行われました。

今回はその第22・23次調査に携わった、遺跡の学び館 文化財副主幹の津嶋 知弘さんの案内・解説で現地を見学しました。

長松院の前から駒木葬祭・連正寺の方向を見ています。駒木葬祭と左隣の駐車場の間に、土墨の跡が残っていました。

調査後に土墨跡は解体されてしまいました。これは連正寺の解体時に撮った写真です。

こういった土墨跡が、今ではなくなっているものも含めて、惣門跡へと続いています。

ここは木津屋の裏側、蔵の下にある石垣が土墨跡です。

第22・23次調査の発掘では、堀の跡や江戸期の遺物の他にも、平安期と思われる竪穴式住居跡、さらには縄文期の土器までもが発見されたそうです。

今住んでいるこの場所に、盛岡城築城四百年以前の、はるか昔から人々の暮らしが続いてきたことを改めて確認できる、貴重な時間でした。

ブックマーケットとペーパークラフト

もりおか町家物語館では6月25日に「浜藤の酒蔵ブックマーケット2023 Summer」が開催されました。今回のテーマは「旅に出よう、本を持って」です。26組と多くの出店があり、私も掘り出し物を狙って探しまくりました。

同じく町家物語館のDOMAでは、6月17日から鈴木幸夫さんによる「木と紙のクラフト展」が開かれていました。

木製の帆船模型が並ぶ中に、建築物のペーパークラフトがありました。

右から「岩手大学農学部 農業教育資料館（旧 盛岡高等農林学校本館）」「紺屋町番屋」「ふれあい覆馬場プラザ アリーナ棟（旧陸軍騎兵第三旅団24聯隊覆馬場）」です。私は、これらの建物全てに、調査・改修などで携わったことがあったので、懐かしさを感じながら見入っていました。

編集後記と朝顔日記2023

6月17日、北上川の舟運と同じ河川敷で「川守稲荷神社・荒神神社例大祭」が開催されたのですが、ものすごい人出でした。

6月27日の三面地蔵尊。今年も各自でお参りとのこと。

今年の朝顔は、一昨年に採取した種を蒔いてみました。（桂）